



2026 年 10 月 8 日

各 位

会 社 名 テクミラホールディングス株式会社
代表者名 代 表 取 締 役 社 長 池 田 昌 史
(コード番号：3627 東証スタンダード)
問 合 せ 先 取 締 役 経 営 管 理 本 部 長 藤 代 哲
(TEL. 03-6838-8800)

2027 年 2 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2026 年 4 月 10 日に公表した 2027 年 2 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績予想について、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

① 2027 年 2 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想の修正（2026 年 3 月 1 日～2026 年 8 月 31 日）

	売 上 高	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する中間純利益	1 株当たり 中間純利益
前回発表予想（A）	百万円 5,000	百万円 △100	百万円 △70	円 銭 △5.93
今回修正予想（B）	5,297	32	△55	△4.61
増減額（B－A）	297	132	15	
増減率（％）	5.9%	—	—	
（参考）前年同期実績 2026 年 2 月期中間期	4,875	△180	△206	△17.44

② 業績予想修正の理由

売上高については、前回予想を約 3 億円上回る見込みです。この主な要因は、IoT&デバイスセグメントにおいて、元高や半導体メモリ等の部品価格上昇など、厳しい経営環境から前回予想時に保守的な見込みとしたものが、想定よりは堅調に推移したことによりです。

経常利益については、前回予想を 132 百万円上回り、32 百万円の黒字となる見込みです。この主な要因は、IoT&デバイスセグメントの業績が、原価低減等により想定を上回って推移したことと、ライフデザインセグメントにおいて、ゲーム事業が好調に推移したことにより、HealthTech 事業の計画未達をカバーし、セグメント全体で前回予想を上回る見込みとなったことによりです。

親会社株主に帰属する中間純損失については、税金費用の発生額が前回予想より増加し、15 百万円の改善となる見込みです。

③ 2027 年 2 月期 連結業績予想について

2027 年 2 月期通期の連結業績予想につきましては、現時点において、事業環境に不確実な点が多い

ため、修正は行いませんが、修正が必要と判断した場合は、速やかに開示いたします。

(注) 上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上